

- 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要□1
- 阿弥陀さまと私□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光□4
- 近畿寺族婦人研修会□6
- 台風21号で教区内に被害□8
- 全国で相次ぐ災害□9
- 響流十方□10
- つれもて聴こら□12



『紀伊国名所図会』に描かれた江戸時代後期の響森御坊

2018年(平成30年)
10月15日
第118号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 電話(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>



平和宣言を行う石上智康総長=本願寺新報社提供(右下も)

東京・千鳥ヶ淵で 全戦没者追悼法要

平和への願い新たに

国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑(東京都千代田区三番町)で9月18日、宗派が主催する第38回「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が厳かに勤められた。1981年(昭和56)から毎年、日中戦争・太平洋戦争のきっかけとなった柳条湖事件の日(9月18日)に勤修されている法要に、国会議員や各国大使らを含む約1400人が参拝した。

和歌山教区から18人参拝

午後0時45分に始まった法要 恒久平和への思いが、仏さまのみでは、宗門関係学校の生徒2人 教えとともに世界へと響き渡ることによる作文朗読と献華に続き、とを願い、平和の鐘がつかれた。

宗門学校生徒が平和の鐘をつく



再び戦禍による悲しみと苦しみを生み出すことのないよう、ここに平和への願いを新たに表します」と、平和宣言。
参拝者らは、正信念仏偈・和讃をおどめし、仏教讃歌「み仏にいだかれて」を斉唱した。

この追悼法要に、和歌山教区からは、仏教婦人会連盟会員、教区内門徒・僧侶ら18人が参拝した。

柳条湖事件

満州事変の発端

となった関東軍による謀略事件。1931年(昭和6)9月18日午後10時20分ごろ、関東軍は奉天(現在の瀋陽)郊外の柳条湖付近で南満州鉄道の線路を爆破。これを中国軍によるものと偽り、武力発動の口実とした。

この千鳥ヶ淵にご参集の有縁の皆さまとともに、その犠牲になられた国内外のすべての方々に心から哀悼の意を表します。そして、ご遺族の方々の癒えることのない痛みを改めて心に刻み、

災害続く日本列島 和歌山も被害

6月18日の大阪北部地震、7月初旬の西日本豪雨、9月6日の北海道胆振東部地震と相次ぐ災害で、寺院・ご門徒にも大きな被害が出ている。和歌山教区でも9月4日の台風21号による強風の影響で、寺院の屋根瓦が破損するなどの被害が続出。修復作業が急がれている。
(8・9面に関連記事)

阿弥陀さま

ハウツー仏事と私

②① お勤め

前回「永代経法要」を取り上げた際、浄土真宗の仏事は追善供養のために行うのではないと申しました。それでは、そもそも浄土真宗ではどのような意味合いでお勤めをするのかという肝心な点について、本連載で触れていないことに気がきました。

お勤めは、勤行ともいい、お寺の本堂やご家庭のお仏壇の前で、ご本尊の阿弥陀さまに向かい、浄土真宗がよびどころとするお経さまである、仏説無量寿経、仏説観無量寿経、仏説阿弥陀経(浄土三部経)や、宗祖親鸞聖人の述作された正信念仏偈(『教行信証』行巻末の漢文の詩句)・和讃

(七五調の和語の詩句)などを誦誦することです。

阿弥陀さま讃え、ご恩に感謝

浄土真宗におけるお勤めの意義を簡潔に表現すれば、「仏徳讃嘆、仏恩報謝」といえます。阿弥陀さまのお徳を讃え、そして、阿弥陀さまが私たちをお救いくださるご恩に感謝するお勤めということなんです。自分の力では決して迷いの世界から抜け出すことのできない私が、阿弥陀さまの尊いお救いに出会い、やがて浄土に生まれ仏と成らせていただく人生を恵まれたことの心情の発露、それがお勤めなのです。それと同時に、お勤めには「聞法」という大切な要素があります。阿弥陀さまを讃えるために拝読するお



きれいにお飾りされたお仏壇に向かい、阿弥陀さまを仰ぎ声をそろえる

お釈迦さまのご説法を聞く

経さまや正信念仏偈・和讃は、私たちに阿弥陀さまの有り難さ、素晴らしさを教えてくださる、お釈迦さまや親鸞聖人のご説法です。そのお言葉を声に出させていただくことによって、いわばそのご説法を再現させていたいただき、私たち自身がご説法に会い、聞かせていただくのです。ですから、浄土真宗のお勤めは、お寺での報恩講や永代経法要も、悲しみを縁とした通夜や葬儀も、年回法要(法事)やご家庭での月参りや盆参りも、あるいは喜びを縁とした初参式や仏前結婚式でのお勤めも、違うのはお勤めさせていた

ただくご縁だけで、お勤めの意義はまったく同じなのです。ところが、「お勤めは亡き方への追善供養(追善回向)のためにするもの」と思い込んでおられる方がいます。しかし、考えてみてください。「生きとし生けるいのちを必ず救う」とお誓いくださっている阿弥陀さまを前にして、亡き方への追善供養という自分の思いだけで手を合わせているとしたら、何ともったいないことをしているのでしょうか。浄土真宗を聞かせていただくとき、私が亡き方のことを心配するより先に、亡き方のことも私のことも心配していただくさうな阿弥陀さまのお心に気がかされます。そして、私が亡き方のために何かしてあげられないような存在ではないことにも気がかされます。お仏壇とは、親鸞聖人のおっしゃる「生死の苦海」に沈む私たちのありようをつくづく見通された上で、「そのまま救うぞ、お念仏申してくれよ」と、呼び掛け続けていくくださる阿弥陀さまに手を合わせ、その大慈悲のお心を味わわせていただく場所です。お仏壇をきれいにお飾りし、声高らかにお勤めさせていただきます。『松本教習・御問答の社会をめぐらす運動』和歌山教区委員長

新

祖蹟点描

20 安養寺



寺号を刻んだ石碑には「法然親鸞両上人御旧跡」。横には「吉水草庵」の駒札が



阿弥陀如来をご本尊とする本堂

1177年(治承元)に往生の素懐を遂げる事によって終わりを告げる。

法然聖人が新たに選ばれたのは、「東山吉水」の地だった。吉水とは、よい清水が湧き出る地であることから名付けられた地名。

『法然上人行状絵図』巻六には、「東山吉水のほとりに、しづかなる地ありけるに、かの広谷のいほりをわたしてうつりすみ給」とある。

法然聖人、吉水の草庵開く

法然聖人は、円照と過ごした草庵をこの地に移築されたのだった。

ここに、以後30年にわたる専修念仏の拠点となる「吉水の草庵」が開かれる。やがてこの場所は、「法然上人行状絵図」が続けて記すところによれば、「たづねいたるものあれば、浄土の法をのべ念仏の行をす、めらる。化導日にしたがひ

て、さかりに念仏に帰するもの雲霞のごとし」という活況を呈するのである。

しかし、その始まりは決して平穏なものではなかった。京都はこのころ、1177年(安元3)の大火、1180年(治承4)の大火、1181年(養和元)の飢饉、1185年(元暦2)の地震と、相次ぐ天災に見舞われていた。

それに加え、源平争乱の時代である。とりわけ1180年(治承4)4月の平氏打倒の令旨によって、諸



吉水の由来になったという井戸(南側飛地境内地にある弁財天社)

安養寺	
場所	京都市東山区円山町624
電話	075(561)5845
交通	京都駅から地下鉄烏丸線で6分、「烏丸御池」駅で地下鉄東西線に乗り換え5分、「東山」駅下車、徒歩約20分。

国の武士団が蜂起。約10年にわたり全国が戦火にさらされた(治承・寿永の内乱)。そのようななか、法然聖人は吉水で聖教(経典・論釈)に向き合う日々を過ごされた。

ただし、源(木曾)義仲軍が京都に乱入した1183年(寿永2)7月28日だけは、「たゞ一日聖教を見ざりき」(『法然上人行状絵図』巻五)と述懐されている。

安養寺は、吉水草庵の跡をどめるお寺。本堂で頂いた一枚刷りの「吉水草庵 安養寺 略縁起」を踏まえて由緒をまとめると、次のようになる。

開創は伝教大師最澄(767~822)。法然聖人の開いた吉

水の草庵は、門人の増加に伴い西ノ房と東ノ房を加え、最初の房を中ノ房と称した。1207年(建永2)2月28日に法然聖人や親鸞聖人が流罪となり、朝廷によって専修念仏が禁止されてからは、比叡山の門跡寺院・青蓮院の第3代門主でもあった慈円(慈鎮和尚、1155~1205)の管

理となり、このときから慈円山大乗院安養寺と号した。至徳年間(1384~1387)に時宗に転じ、江戸時代には、本房および六力寺を構える堂々たる寺観を誇り、この辺りは山号にちなみ「円山」と呼ばれた。明治の廃仏毀釈によって境内地の多くを没収され、没収された境内地は、円山公園の一部となっている。(本紙編集部)

鷺森別院で公聴会

9月27日、鷺森別院で宗派が教区内の意見を聴く公聴会が開催され、教区内僧侶・門徒ら56人が参加した。この公聴会は、今年度から新たになった「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクトを確認し、具体的事例を集約することも、現行の賦課制度の周知を図り、今後の宗門財政について意見聴取と情報共有を行うため開催されたもの。

宗門財政について意見聴取



宗派出向者に対し、参加者から質問が続いた

山下義円総務、小椋智之統合企画室次長、栄俊英寺院活動支援部(組織教化担当)



山下義円総務

当(兼子ども・若者)縁づくの推進室部長らが出向し、理解と協力を求めた。

海南組で連研修了式

第3期は22人修了



修了式の様子(了賢寺)

9月15日、海南組了賢寺(海南市冷水)で第3期門徒推進員養成連続研修会(連研)修了式が行われた。第2期終了から10年以上開催されていなかった同組連研は、組内寺院の任職をはじめ、僧侶・坊守の協力と

過疎地域の寺院でも法座を

教区布教団が年に一度の紀南開教布教

和歌山教区布教団では、7月30日、過疎地域のお寺で法座を開く「紀南開教布教」を、紀南組専光寺(新宮市)で実施。僧侶・門徒17人がこの法座に参拝した。



紀南組の僧侶・門徒が参拝

法座では、午後1時30分から同組内寺院住職らが出勤し正信偈をお勤め、3時30分まで島和夫師(和歌山教区布教団副団長、和歌山組西覚寺住職)の法話を聴聞した。会所と

を聴聞した。会所と

なった寺院は、過疎地域の所在しており、長らく任職不在で法座の開催が困難だったが、2年前に新たに任職を迎え、この開教布教が法座再開のきっかけになればと考えている。島講師は法話の中で、お参りされていたご門徒に、一人でも参拝者が増えるように任職と協力して寺院活動を活性化していただきたいと激励する場面も。この開教布教は、過疎対策の一環として年に一度、布教団員が出向して現地視察を行うとともに、法座を開催しているもの。



お寺ハイコーラス♪

一緒に本堂で歌いませんか
和歌山組仏婦主催
「お寺ハイコーラス」
♪は、11月6日の
仏婦報恩講に向け童謡や仏教讃歌を練習中(写真)で、男女問わず参加者を募っている。練習日10月23日・30日10時、会場東紺屋町・念誓寺(電話42219213)。千円。

門徒の熱意によって、2016年11月から31人の受講者を迎えて第3期連研が開催され、12回の研修を終えたこの日、修了式を迎えた連研修了者22人から、海南組第1号となる門徒推進員の誕生が期待されている。

青色青光

イラストや図で分かりやすく

初めて学ぶ「正信偈」講座 at 鷺森別院

9月22日、浄土真宗本願寺派総合研究所が主催する、第1回「初めて学ぶ『正信偈』講座 at 鷺森別院」が鷺森ホールで開かれた。教区内外から僧侶・門信徒ら43人が受講。



教区内外から43人が受講

日常のお勤めとして親しまれている「正信偈」(正トのパワーポイントを用いて、依経段について講義を行った。

初回を終えた受講者からは「イラストや図で示してくれたので、分かりやすかった」「日ごろ、充分内容を理解しないまま正信偈をお勤めしていたが、この講義で理解が深まった」など、好意的意見が多かったが、「現実の生活に全く関係を感じなかった。内容が

非日常的」「もったかみ砕いて教えていただきたいと思いました」などの感想も出ていた。

主催者である総合研究所としては、仏教的価値観を社会に対して提言・発信するために企画したものだったが、初めて学ぶ方を対象にした講義の難しさを実感させられる面もあった。

この講座は全3回の予定で、第2回は10月13日に開かれた。第3回は11月10日に開催される。

小中学生79人、ご本山で清掃奉仕

教区少年連盟が児童念仏奉仕団に参加

7月26日と27日の2日間、西本願寺で開催された児童念仏奉仕団に、和歌山県内各地からバス3台、小中学生79人(引率含め107人)が参加した。和歌山教区少年連盟では例年この奉仕団に参加しており、今回で46回目。

1日目、子どもたちは、厳しい暑さとも物ともせず、御影堂の外陣の畳拭きで汗

3ブロックで門信徒総研修会

子どもを取り巻く貧困問題学ぶ

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)和歌山教区委員会では毎年、和歌山教区内を3つのブロックに分け、聞法の集い(門信徒総研修会)を開催している。

今年は、宗門重点プロジェクトの実践目標として掲げられた



参加者であふれた吉備ドーム

「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace」子ども

「私たちを育むために」をテーマに、教区内僧侶・門信徒に子どもの貧困問題について学びを深めてもらうと、本願寺派総合研究所の研究員を講師に迎え開催。

9月1日、第1ブロックは海草組が担当し鷺森別院で開催、137人が参加。同じ日に第2ブロックが有田南組担当で吉備ドームにて。320人参加。9月29日は、第3ブロックが御坊組担当のもと日高別院で開催し、211人が参加した。



大きな声でお勤め(安穩殿)

を流した。この日は北境内地で盆踊りが開催されており、西本願寺職員をはじめ、協賛業者が出店するかき氷やジュースを購入し、涼を取りながら、盆踊りやくじ引きなどの催しを楽しんだ。

2日目は、眠い目をこすりながら、朝6時からのお晨朝に参拝。ご門主のご面接では、児童の代表者が緊張しながらも団体名を名乗り、記念撮影を行ったあと、ご門主からお言葉を頂いだいた。

帰りに寄った大阪府立大型児童館ビッグバン(堺市南区)は、「遊び」をテーマに、子どもの豊かな遊びと文化創造の中核拠点として1999年6月にオープンした施設。4階から8階の空間を利用した53畳の高さを誇る巨大なジャンクルジムや木登り遊具などが設置された遊び場に、大興奮。子どもたちは、この児童念仏奉仕団を通して、夏休みの楽しい思い出となる2日間を過ごした。

お念仏に生きた先人に学ぶ

鷺森別院で近畿ブロック寺族婦人研修会

歴史学者 今井 雅晴 さん



私は、鎌倉時代を中心に平安時代、室町時代の歴史について研究してまいりました。今日は、そういう立場でお話ししますので、今まで伝わってきた親鸞聖人、恵信尼さまの伝記と違うところも出てまいります。私としては、何百年も大事にされてきたものを壊すつもりは毛頭ありません。ただ、新しいことがいろいろ分かってくるのも事実です。恵信尼さまは、越後の豪

族の娘さんだったと、ここ数10年言われてきました。しかし、実際は京都の中級貴族のお嬢さんでした。一番大きな根拠は、父の三善為教は越後介をしておりましたが、介は京都の貴族が就任すべき職なんです。国司(国ごとに置かれた地方行政官)は、守・介・掾・目という四等官制で、守と

貴族の家では、琴を合奏することが楽しみでした。逆に、炊事、掃除、育児という人から見える労働はしてはいけなかった。それは家来の仕事だった。それと、夫の相談役になれる能力を身に付ける必要があった。というのも、イメージとは違い、貴族の社会は大変競争が厳しく、夫が「職」「位」を得るには妻としても社会の現実的な

部分をよく理解しておかなければなりません。聖人の六角堂参籠 親鸞聖人は29歳のとき、20年間生活された比叡山を下りて、京都の六角堂に参籠されます。恵信尼書状第三通(註釈版聖典の恵信尼消息第一通)によれば、親鸞聖人は六角堂に百日お籠もりされて極楽往生を願ひ、そのしるしを得ようとされた。そして、95日目の朝のまだ暗いころ、観音菩薩が現れ出てくださり、教えを説かれた。親鸞聖人は、すぐに法然上人に会いに行かれ、また百日間、法然上人のもとに通われ、生まれ変わり死に変わりする迷いの世界を出て、浄土へ往生する道(生死出づべき道)をただ一筋に説かれるのを、間違いないと承った。

親鸞聖人にとって大変だったのは、師匠、先輩方から切り離されて、一人で学びの生活をしなければならなくなったことではないか。越後でも、流人は平安時代後半から、農民が付いている田んぼをもち、日常生活は楽だった。農民や武士の姿を知る 越後では、農民・山村民・漁民の生活を肌で知り、それぞれの地域の領主である武士たちの実態も初めて知ったのだらうと思います。武士は領地を得るために戦で人を殺すのが仕事。ところが仏教が入ってきて、それが地獄へ墮ちる行いだと知ったときの恐怖はとてつもなく大きかった。長い間、親鸞聖人のお弟子さんは農民だったと言われてきましたが、史料で分かるかぎりは武士でした。親鸞聖人の門弟を一覧表にした「親鸞聖人門徒交名牒」によると、「〇〇房」と名前があつて、その下に仮に「紀伊国鷺森住」と書いてある。この「住」は、その土地に住んでいる武士という意味なのです。

「一家族で関東へ」 恵信尼さまは、越後で7年間を過ごされます。お子さんも二人おられた。そこからさらに、ご家族で関東へ移られます。ここでも恵信尼さまは、夫である親鸞聖人の理想に共鳴されて、見知らぬ関東へいらつちやうした。恵信尼さまは、そのときどきの状況に応じて、自分自身をよい方向に変えていくという気持ちを持っておられた女性だったのではないだろうか。関東に残っている恵信尼さまの絵像が4点ほどありますが、みんなにこやかな年配の女性の姿です。お子さんも5人ほどに増えますが、関東でも充実した生活を送られたのだと思います。

親鸞聖人が法然上人のもとへ百日間通われて、という過去の話は、自分の体験として語っておられる。ということは、恵信尼さまは、親鸞聖人が法然上人に出会われたその場におられた。貴族の女性ですから御簾を垂らすとか隣の部屋だったかもしれないが、親鸞聖人が出会われたと考えることができる。

講演「若き日の恵信尼さま」

今年4月にご本山で750回忌法要も勤められた親鸞聖人の奥方・恵信尼さま(1182~1268)に学ぼうと、近畿ブロック寺族婦人研修会が10月4日、「念仏者の生き方に学ぶ」 恵信尼さまのご生涯を通してのテーマで、和歌山教区寺族女性会(吉田敬子会長)が担当して鷺森別院本堂で開かれた。近畿6教区(滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・兵庫)のお寺の坊主さんら318人が、歴史学者で親鸞聖人と恵信尼さまに関する著書も多い今井雅晴さん(筑波大学名誉教授)の講演「若き日の恵信尼さま」を聴き、和歌山西組浄福寺の北條孝如住職がメンバーを務めるバンド、The Beatripsの演奏を楽しんだ。

族の娘さんだったと、ここ数10年言われてきました。しかし、実際は京都の中級貴族のお嬢さんでした。一番大きな根拠は、父の三善為教は越後介をしておりましたが、介は京都の貴族が就任すべき職なんです。国司(国ごとに置かれた地方行政官)は、守・介・掾・目という四等官制で、守と

貴族の家では、琴を合奏することが楽しみでした。逆に、炊事、掃除、育児という人から見える労働はしてはいけなかった。それは家来の仕事だった。それと、夫の相談役になれる能力を身に付ける必要があった。というのも、イメージとは違い、貴族の社会は大変競争が厳しく、夫が「職」「位」を得るには妻としても社会の現実的な

部分をよく理解しておかなければなりません。聖人の六角堂参籠 親鸞聖人は29歳のとき、20年間生活された比叡山を下りて、京都の六角堂に参籠されます。恵信尼書状第三通(註釈版聖典の恵信尼消息第一通)によれば、親鸞聖人は六角堂に百日お籠もりされて極楽往生を願ひ、そのしるしを得ようとされた。そして、95日目の朝のまだ暗いころ、観音菩薩が現れ出てくださり、教えを説かれた。親鸞聖人は、すぐに法然上人に会いに行かれ、また百日間、法然上人のもとに通われ、生まれ変わり死に変わりする迷いの世界を出て、浄土へ往生する道(生死出づべき道)をただ一筋に説かれるのを、間違いないと承った。

親鸞聖人にとって大変だったのは、師匠、先輩方から切り離されて、一人で学びの生活をしなければならなくなったことではないか。越後でも、流人は平安時代後半から、農民が付いている田んぼをもち、日常生活は楽だった。農民や武士の姿を知る 越後では、農民・山村民・漁民の生活を肌で知り、それぞれの地域の領主である武士たちの実態も初めて知ったのだらうと思います。武士は領地を得るために戦で人を殺すのが仕事。ところが仏教が入ってきて、それが地獄へ墮ちる行いだと知ったときの恐怖はとてつもなく大きかった。長い間、親鸞聖人のお弟子さんは農民だったと言われてきましたが、史料で分かるかぎりは武士でした。親鸞聖人の門弟を一覧表にした「親鸞聖人門徒交名牒」によると、「〇〇房」と名前があつて、その下に仮に「紀伊国鷺森住」と書いてある。この「住」は、その土地に住んでいる武士という意味なのです。



本堂はThe Beatripsによるビートルズメドレーで盛り上がり、アンコールまで飛び出した



素敵な歌声を聞かせた北條孝如住職

結婚、そして越後へ—— 親鸞聖人と心の絆育む

当時の結婚は「通い婚」でした。男性が女性の家に夕方来て、朝早く帰る。女性は一生涯を動かさない。姓も変わりませんでした。流罪に同行される 親鸞聖人が越後に流罪になられたとき、同行されなくてもよかったです。一緒に行かれたのは、お二人の心の絆がよほど強くなっていた

流罪に同行される 親鸞聖人が越後に流罪になられたとき、同行されなくてもよかったです。一緒に行かれたのは、お二人の心の絆がよほど強くなっていた

和歌山教区

台風21号で123カ寺に被害

台風21号は、「非常に強い」勢力を保ったまま、9月4日、徳島県南部さらに神戸市付近に上陸した。

これに伴って、大阪では1961年の第2室戸台風のときに観測した過去の最高潮位を瞬間的に上回る値

(329センチ)を観測。関西空港では、滑走路をはじめ広い範囲で浸水するなどの被害が出た。

また、四国や近畿を中心に記録的な暴風となり、最大瞬間風速は和歌山市で57.4メートル(午後1時19分)を観測し、過去最高値だった

第2室戸台風の56.7メートルを超えた。この強風で屋根瓦が飛ぶなど、多くの住宅で被害が出た。

和歌山教区内寺院でも、山門倒壊、本堂屋根の一部崩落など、10月5日現在で123カ寺(全277カ寺)の被災報告が出ている。



強風で倒壊した山門(和歌山組西教寺)

屋根に穴が空いた本堂(御坊組光明寺)



天井板が破損し応急処置(海南組了賢寺)



木々が倒れた境内地(鷺森別院)



桜の木が倒れ、根元付近の参道の石段が浮き上がった(岡崎支坊)



瓦が飛散した本堂の屋根(御坊組常照寺)

全国で相次ぐ災害

義援金にご協力を

大阪府北部地震

6月18日午前7時58分ごろ、大阪府北部を震源として発生した地震で、大阪府内で死者5人が出たほか、近畿2府5県で負傷者435人、住宅の全壊12棟・半壊273棟・一部破損4万1459棟の被害が出た。西本願寺境内及び大谷本願寺・伝道院と直属寺院(別院など)においても多数の被害が確認されており、本派寺院226カ寺が被災、門信徒が被害を受けた寺院

は58カ寺以上となっている(8月2日16時現在)。

平成30年7月豪雨

6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で観測された台風7号および梅雨前線などの影響による集中豪雨「平成30年7月豪雨」により、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生。死者数が200人を超える甚大な災害となった。宗派内でも、報告を受けているだけで128カ寺が被災、門信徒が被災した寺院は321カ寺以上(8月27日13時現在)。

上(8月27日13時現在)。「大阪府北部地震」と「平成30年7月豪雨」については宗派で義援金を募っており、鷲森別院や各寺院にお寄せいただくか、左記口座宛てにお送りください。

【郵便振替】0100014169957、加入者名「たすけあい募金」
【銀行振込】ゆうちょ銀行一〇九店、(当座)0069957、名義「たすけあい募金」

※郵便振替、銀行振込とも、通信欄に「大阪府北部地震」または「平成30年7月豪雨」と記入ください。
【問い合わせ】本山社会



川が氾濫し土砂が境内に流入した広島市内の教蓮寺 (本願寺新報社提供)

部(災害対策担当)、電話075(371)5181。

北海道胆振東部地震

9月6日午前3時7分、北海道胆振地方中東部を震源として発生した地震で、多くの住宅が倒壊。震源に近い厚真町では広い範囲で大規模な土砂崩れが発生し、多数の住宅が巻き込まれた。この地震が原因で各地で液状化現象が発生し、道路が隆起・陥没。また、苫東厚真火力発電所のボイラー管破損に端を発し、北海道全域で停電が続いた。

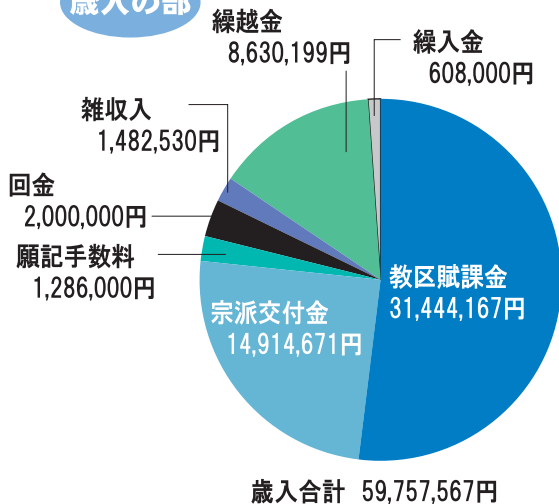
本派でも被災寺院13カ寺、門徒が被災した寺院2カ寺(9月18日17時現在、継続調査中)。

北海道教区において「北海道胆振東部地震災害義援金」を受け付けています。
【郵便振替】02790161103182、加入者名「北海道教区教務所」
【問い合わせ】北海道教区教務所・災害対策委員会、電話011(611)9623。

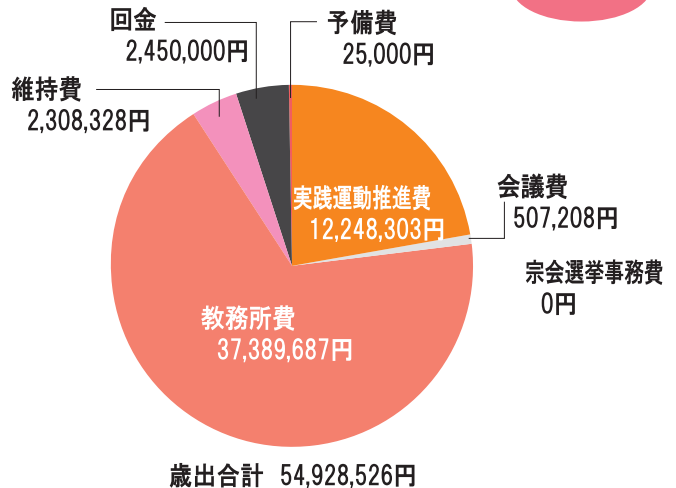
2017年度和歌山教区一般会計歳計決算

(2017年4月1日～2018年3月31日)

歳入の部



歳出の部



郷流十方

10月15日 12月の催し

本山

- 10月15日 龍谷会(大本願報恩講法要)
- 11月22日 23日 全国門徒総追悼法要
- 12月20日 御煤払
- 12月31日 除夜会

和歌山教区

- 10月20日 第2回仏教壮年会連盟理事会(鷺森別院)
- 10月25日 門徒総代会委員(鷺森別院)
- 11月5日 近畿同朋運動推進協議会(京都教区事務所)
- 11月9日 勤式講習会(鷺森別院)

教区内各組

- 12月15日 門徒推進員連絡協議会茶話会(鷺森別院)
- 12月19日 布教団連続法座(鷺森別院)

和歌山組

- 11月10日 本願寺仏教文化講座初めて学ぶ「正信偈」講座③(鷺森別院)
- 11月15日 門徒推進員連絡協議会報恩講参拝(本願寺津村別院)、仏教婦人会連盟清掃奉仕(鷺森別院)
- 11月24日 寺族女性会集(鷺森別院)
- 11月25日 仏教壮年会連盟集(鷺森別院)
- 11月26日 門徒総代会集、責任役員辞令・門徒総代登録証伝達式(鷺森別院)
- 11月27日 仏教婦人会連盟集、社推協バザー、布教団通夜布教(鷺森別院)
- 12月8日 和歌山教区子ども集い(鷺森別院)
- 12月13日 第3連区「ハ」ラ研修会(兵庫教区)
- 12月14日 勤式講習会(鷺森別院)
- 10月19日 仏教婦人会連盟「お寺へイコース」(念誓寺)
- 11月5日 門徒総代会・仏教壮年会連盟合同報恩講参拝(宗善寺)
- 11月6日 仏教婦人会連盟報恩講(西光寺)
- 11月17日 第7期門徒推進員養成連続研修会⑩(鷺森別院)
- 11月22日 仏教婦人会連盟「ダーナの会」(鷺森別院)
- 12月未定 寺族婦人会報恩講(西正寺)
- 12月15日 実践運動僧侶・寺族研修会(鷺森別院)
- 12月未定 仏教婦人会連盟

和歌山東組

- 12月23日 子ども・若者で縁つくりキッズサンガ(鷺森別院)

和歌山西組

- 11月11日 第17期門徒推進員養成連続研修会⑩(松専寺)

和歌山北組

- 12月1日 組内会、組僧侶研修会(正善寺)

和歌山南組

- 10月下旬 第2回組内会(慶圓寺)

加茂組

- 11月下旬 組実践運動推進協議会(慶圓寺)

海南組

- 12月9日 実践運動推進僧侶・寺族研修会(了賢寺)

海草組

- 11月10日 実践運動研修協議会(報徳寺)

有賀組

- 12月上旬 キッズサンガ(報徳寺)

伊那組

- 12月8日 組内会(報徳寺)
- 12月15日 実践運動僧侶・寺族研修会(鷺森別院)

御坊組

- 11月未日 小委員会(かつらぎ町・極楽寺)
- 12月未日 組内会(かつらぎ町・極楽寺)

紀南組

- 12月未日 組内会(称念寺)

有田南組

- 10月24日 住職・僧侶研修会(称念寺)

有田北組

- 12月未日 組内会(称念寺)

ラジオ放送番組
みほとけとともに
- 西本願寺の時間 -

◆毎週土曜日 午前5時50分から
- 和歌山放送 (WBS) -

和歌山・串本	1431kHz
田辺・すさみ	1233kHz
橋本・高野山	1485kHz
新宮・御坊	1557kHz

敬 弔

北山通昭(日高組光専寺住職) 7月26日
藤下悦子(和歌山組西法寺前坊守) 8月5日
ご生前のご功績を偲びつつ、ご尽力に感謝申し上げます。謹んで敬弔の意を表します。

講 恩 報 鷺 森 別 院

みなさま ぜひご参拝ください



教区内僧侶が出勤しお勤め(昨年の様子)

11月24日から28日の5日間、恒例の鷺森別院報恩講が勤修される。

27日までは、毎座午後1時30分からお勤め、2時ごろから法話。28日は午前10時からお勤め、引き続き法話。布教使は、24〜26日は久林高伸師(大和高田市・常徳寺)、27〜28日は佐々木義英師(大津市・福田寺)。

27日は、正午から本堂で、本派社会福祉推進協議会和歌山教区支部主催恒例のチャリティバザーを開催。午後2時30分ごろから

書院で僧侶・寺族物故者追悼法要を勤修。午後7時から和歌山教区布教団主催の通夜布教が行われる。

この報恩講に合わせ、各教化団体が左記の通り午前中につごいを開催。

26日は午前中に責任役員辞令・門徒総代登録証伝達式が行われる。対象寺院宛に案内を後日送付する。

各団体参拝奨励日
24日 寺族女性会
25日 仏教壮年会連盟
26日 門徒総代会
27日 仏教婦人会連盟

鷺森別院の催し

常例法座

10月15日 藤田朋之師(東近江市・教勝寺)、16日 伊井智雄師(和歌山市・極楽寺)。

11月15〜16日 田淵幸三師(南河内郡・極楽寺)。

12月15日 味府浩子師(摂津市・常願寺)、16日 長谷川義則師(海南市・安養寺)。

毎座午後1時30分からお勤め、引き続き午後3時30分まで法話を聴聞する。

日高別院の催し

報恩講

11月30日から2日までの3日間、報恩講が勤修される。布教使は野田成敏師(京都府みやこ町・光顔寺)。

30日は午後1時15分から御坊幼稚園園児、保護者の参拝。園児らの献灯献花に続き正信偈をお勤め、引き続き午後3時30分頃まで法話を聴聞する。

子ども会

11月10日、午前10時から正午まで開催する。らいは

のうたをお勤めし、その後ゲームなどを行う。詳細は鷺森別院まで。

(本願寺鷺森別院 和歌山市鷺森1番地 電話073-422-4677)

で法話を聞く。その後、讀仏偈をお勤め。

鷺森テレホン法話
おにしさん
073-422-0243

こころの電話(海南組西光寺) TEL(073) 487-2430
ヤングこころの電話(同上) TEL(073) 487-0404
こころの電話(御坊組専福寺) TEL(0738) 44-0874

2日は、午前10時から御坊組仏教婦人会連盟研修会が行われ、その後バザーが開催される。午後1時30分からお勤め(正信念仏偈作法第2種)、引き続き輪番が『御俗姓』を拝読。その後、午後3時30分まで法話を聞く。

除夜会・元旦会

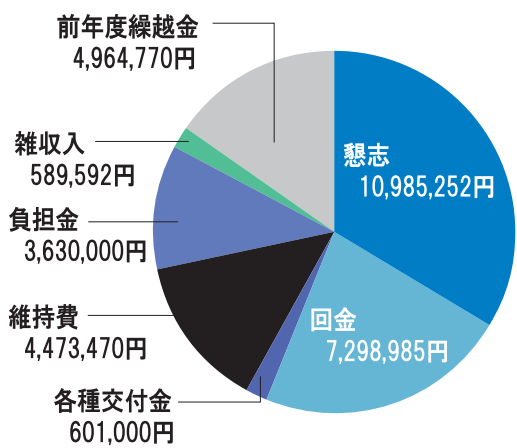
1日は、午後1時30分から正信偈をお勤めし、『御伝鈔』(下巻)拝読。その後、午後4時ごろまで法話を聞く。この日は御坊組門徒総代会、仏教壮年会、連研修了者の参拝奨励日。

午後11時30分から本堂で讀仏偈をお勤めし、梵鐘を撞く。午前0時30分ごろから元旦会。正信偈をお勤めし、輪番の新年のあいさつ。(本願寺日高別院 御坊市御坊100 電話0738-22-0518)

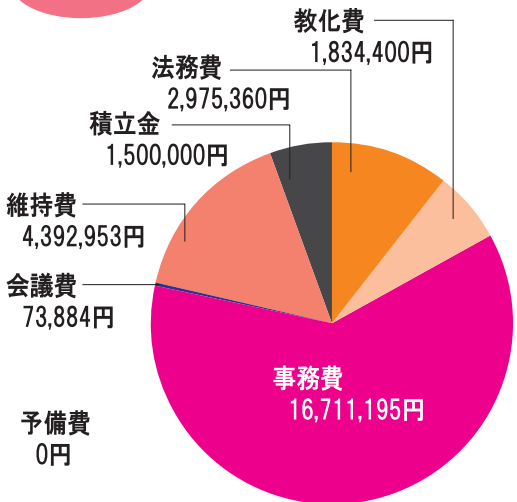
2017年度本願寺鷺森別院 一般会計歳計決算

(2017年4月1日~2018年3月31日)

歳入の部 歳入合計 32,543,069円



歳出の部 歳出合計 27,487,792円



つれもて 聴こら

これは、あるお医者さんの話です。

その医師には、2人のお子さんがいて、あるときから長男の子が調子を崩し、検査を受けると白血病ということが分かりました。

思い悩む医師に、看護師長さんが、ふと「子どもの頃にお寺のご法座で、人がいのちを終えようとするときに、南無阿彌陀仏の仏さまが抱きかかえて、仏さまの世界に連れて行ってくださる。私はそう聞かせていただき

上谷良昭

そのことを知った医師は、なぜ気付いてやれなかったのかと、非常に自分自身を責められたそうです。だんだんと身体が衰えて

た。けれども、息子さんに再び、「お父さん、僕死ぬの。僕どうなるの」と聞かれたとき、とっさに、「大丈夫、阿彌陀さまが、おまえをちゃんと抱えて仏さんの世界へ迎えてくださる」という話やから、心配せんでいい」と、答えられた。ご任職は、「あなたが納得いくか、いらないかはたいた問題やない。あなたに答えをもらった子どもさんに言ったことに驚きました。そして看護師長さんから紹介してもらい、お寺のご任職に直接お話を伺いに行かれました。



「先に往った子は我が善知識」

お寺参りで気付かされた医師

んでみられては「どうですか」とお話しになりました。息子さんが息を引き取ったから、その医師は熱心にお寺に足を運び、お聴聞に励むようになりました。そんな医師に、ご任職は、何か変わりましたか、と尋ねられました。すると医師は、「あの子が、私を無常の世界から悟りの世界へと導いてくださった善知識のはたらきをしてくださったんですよと気付かされました」と、答えられたそうです。

自分より先にいのちを終えていった子どもが、自分を救わんがためにこの世に出てくださった、いわば菩薩さまであったと味わっていたのです。

親鸞聖人は『教行信証』の末尾近くに「前に生れん者は後を導き、後に生れんひとは前を訪へ」（註釈版聖典474巻）と、道綽禪師のお言葉（安樂集）を引いておられます。先にお浄土に生まれていかれた方々は、私もまたお浄土への道を歩むよう導いてくださっています。私たちは、その方々のあとを尋ね、その方々からお育てを頂き、阿彌陀さまのお救いを精いっぱい聞かせていただくのです。

いく息子さんに、「お父さん、僕どうなるの」と尋ねられたとき、医師はこう答

ました」と話されました。しかし医師は、「そんな話は信じない」と言いました。その医師自身、自分が信じていないことを、息子さ

んの顔は、どこか違ってたんじゃないですか。これをきっかけに、お寺に足を運

そのご縁を頂いているからこそ、いずれ私もその方々と阿彌陀さまの世界でまた会わせていただくのです。
(神戸市中央区・報恩寺)
8月15日の鷲森別院盂蘭盆会の法話から